

韓国にも輸出するエフ・イー(旭川市)製作

「葉付大根洗浄機」の人気

農業用プラントなど機械装置開発のエフ・イー(本社・旭川市、佐々木通彦社長)が製作した「葉付大根洗浄機」が注目を集めている。

これまで大根の洗浄は水



▲佐々木通彦社長



▲葉付大根洗浄機

槽で大根をうるかして、表面に付いた土を落としてから洗浄していた。しかし、この方法だと水槽で使用した大量の水の処理と大根がうるかしている間に大根が水を吸ってしまい柔らかくなり、洗浄することで酸化しやすくなるといった弱点があった。

槽で大根をうるかして、表面に付いた土を落としてから洗浄していた。しかし、この方法だと水槽で使用した大量の水の処理と大根がうるかしている間に大根が水を吸ってしまい柔らかくなり、洗浄することで酸化しやすくなるといった弱点があった。

同社が開発した「葉付大根洗浄機」は水槽を使用せず、少量の水でこれまで以上の洗浄能力を備えている。ソフトブラシで回転させながら大根を送り、リングブラシによって先端、曲がり、凹部分などの汚れを浮かし、縦扇状水圧によって洗浄する。大根を回転させ葉をしばるようにするため、葉を折ることもなく鮮度落ちの原因となる傷も付きにくい。栄養のある大根の葉の需要は高いが、これまでは1本1本洗わなければならず手間がかかるため、大半は葉を切り落として出荷されており、葉付で洗浄できる機械の開発が待たれていた。同社ではこれまで国内で150台余を販売している。

この洗浄機が8月初旬から韓国へも輸出されることになった。「韓国ではキムチ用大根が大量に使用され、洗浄は関係者の課題でもあった」(佐々木社長)という。

同社では韓国の農業関連企業・ガナンナチュラル社(本社・ソウル市)の仲介で韓国北部の農業法人に中規模プラントを輸出する。道内では商社などを通して製品を輸出するのが通例だが、同社では直接韓国の業者と販売契約を結んでおり、これは大変珍しいケースだという。

「葉付で大根を洗浄できるようになったことは、消費者の需要にあった出荷が可能になり、国内生産地にとっても大きなメリットとなるはず。また機械の据え付けからアフターまで、当社の社員が現地まで出向き責任を持って行っている」と同洗浄機に佐々木社長は絶対の自信をみせる。